

令和8年度 第1回小平市農のあるまちづくり推進会議議事録

1 開催日時

令和8年4月27日（月） 午後2時00分～午後3時30分

2 場所

小平市役所 3階 庁議室

3 出席者

委員：出席11名、欠席1名

事務局：出席4名

4 内容

(1) 市長あいさつ

(2) 委員の紹介

各委員より自己紹介

(3) 会長・副会長の選出

→会長：松澤委員（東京都農業会議）

副会長：竹内委員（小平市農業委員会）

(4) 小平市の農業について

→事務局より、資料を元に説明

(5) これまでの活動実績と今後の計画について

事務局より資料を元に説明し、今期の活動の方向性について事務局より提案。

提案内容：「農業への関心層を、農業の支え手へ誘導する取り組み」

⇒提案を元に協議

以下、「(5) これまでの活動実績と今後の計画について」の協議内容

- ・ 労働力という面で見ると、小平市立中央公園でマルシェが開催され、援農ボランティアでお世話になっている農家の方も出展している。今後1ヶ月に1回程度はマルシェに参加するようで、これに手伝いに行くのも労働力としての農業の支え手になると感じた。また、援農ボランティアでお世話になっている農家の方のところで、私が自主的にホームページを立ち上げ、援農ボランティアがどんなことをやっているのか、どんな作物が販売されているのか、といった情報を発信しており、農業の支え手は様々だと感じている。
- ・ 市役所で健康ポイントという、設定された条件を満たすように歩数を稼ぐことで、景品がもらえる事業がある。周りの人がよく参加していたため、参加し始めた。スタンプラリー事業も、人づてに広がることもあるため、宣伝を広く行うことで事業が定着していくと思う。
- ・ 農業の支え手は、農業に関心を持つ層が次のフェーズに入るということだと思うが、「稼ぐ視点」「経済的な視点」を入れることだと思う。興味関心を持って勉強し、それをもとに副業で稼ぐ。例えば、半日働けばバイト代が出たり、60代で定年退職し、その知識とキャリアで自身で農地を借りて、生産した農産物を販売して稼げるということになれば、農業の支え手になれるような気がする。つまり、本業と合わせて、空いた時間を農業の経済活動に回して、それで対価を得るといえることができるようになれば、支え手を増や

せると思った。

- ・ 市内には非常に多くの農地があるが、今まで市民農園で農業をやっていたが、より本格的に農業に興味を持った人達が、より大きな畑を友人や家族と共同で借りて、共同の耕運機で本格的に農業ができるのも良いと思う。市外の人も電車で来て、設置された更衣室やシャワー室を利用して帰るみたいなトレーニングジムのような使い方も良いと思う。
- ・ 市内で農業に関する取り組みが様々行われていて、その取り組みが市民に限定されてしまうことは、非常にもったいないと思う。小平市の農業を支えてくれる人、好きでいてくれる人を増やす、そしてその人たちが、気持ちよくお金を出してもらい、もしくは気持ちよくお金を稼いでもらう、といった仕掛けができれば良いと思う。
- ・ 近年、公共施設や農家の方々にもスポンサーがついて、ネーミングライツ的な形でやっていたり、大手企業だと提携農場で作られた農産物を使っていますと広告していたりするが、近場でこのような取り組みが実施されても良いと思う。例えば、志の高い外食企業と市内農家の方々が組み、お金を入れてもらうこともできると思う。市内に限らず、近隣市町村にそういったお店があれば、小平の農業を出先でPRする場所になると思う。
- ・ 企業的な視点で見ると、都内農地で新しい品種や新しい技術を開発するのは非常に難しく、企業から都内でどこか開発に協力的な農家の方々はいないかと聞かれることがある。企業や大学の方が市内農家の方々と連携して、研究や開発を実践できる場として市内農地を活用して、企業や大学にお金を落としてもらいようなことも良いと思う。また、例えばそこで研究を行った大学生が市内農家に弟子入りして、最終的には第三者に事業承継するようなことも期待できる。
- ・ 事業での連携で言えば、例えば昨年度行われたスタンプラリー事業をブリヂストンと連携し、自転車で直売所を巡る人が多いという点では、ブリヂストンにも広告効果があると思う。そのため、協賛金や景品を出してもらいようなこともできるのではないかなと思う。市内に大手や中堅の良い企業もある上、そういった企業と対話を重ねスポンサーになってもらうことはできるのではないかなと思う。
- ・ 市内にはゴルフ練習場が多くあり、ゴルフ練習場には近隣市からある程度の所得層の方が市内に入ってくるため、そんな事業者と連携すると、市内にもう一步踏み込んでもらうようなことできるのではないかなと思う。
- ・ 「稼ぐ」という点で言えば、農産物は毎日食べるもののため、高かったら買う人は少ない。生産した農産物をブランド化して高く売って稼ぐのが良いのだろうが、ブランド化も簡単ではないため、現状では大量に販売することが「稼ぐ」ことに繋がると思う。
- ・ 都市農業で農産物を大量生産するのは限界があると思う。「稼ぐ」ために、農産物の販売代金だけではなく、プラスアルファのお金をどう気持ちよく払ってもらおうかという部分には、農業体験などを通じた白菜やネギが1個並んでいるといった見方ではない見方をしてもらい必要もあると思う。直売所の新鮮で安価に農産物を販売するという部分は崩さずに、「稼ぐ」にチャレンジできればと思う。
- ・ 農家の方々にとっては当たり前のことを、商業者から見たら初めて知ることでも沢山ある。例えば、市内で作付け面積が一番多い農産物が里芋というのは驚きであった。こういった情報を商業者は、JA・生産者の方々との関わりの中や、このような会議に参加することで知る。そこから加工や、商業者と農家の方々が一緒に組んで事業を行って、市内の産業振興に繋がるようなことを実施できればと思う。
- ・ 課題の一つとして、情報をどのようにして拡散していくかということが挙げられる。また、何をテーマに発信するかということも難しいが、例えば小平市はブルーベリーが経済裁

培発祥の地であるため、このような他にはないものをどのようにPRしていくかということも課題である。一方、PRや広報については民間からの発想の方が伝わりやすいと思う。本協議会では様々な経歴の方々がいるため、そういったことも議論できればと思う。

- ・ 小平市がブルーベリー経済栽培発祥の地ということ、ブルーベリーの研究を学生としている中で知った。これはもっとプッシュして広報して良いと思う。ブルーベリー経済栽培発祥の地を、観光客へのPR材料だけではなく、市内で宅地開発やマンション開発等が進んでいる中で、農業に興味関心があるから小平市に住みたいということにも繋がるかもしれない。多摩地区の中でも小平は農との接点が深いため、この一言を謳うだけで、小平市に来る人も少しはいるのかもしれない。
- ・ どのような形でやっていくのかについてはまだ見当がつかないが、市民だけではなく、他市区町村に住む人に対してもPRをして、小平に来てもらうというのは良いことだと思う。市外の人が小平に買い物に来るとするのは非常に良いと思った。
- ・ 共同で農地を借りて、本格的に農業を行うという点について、小平市役所に間に入り、後継者不足で困っているような農家の方々と、借りたい人を繋げば、農家の方々やその親族が農業経営を行わなくても、市民や区民が農家の方々から経営のノウハウを教わりながら農業ができるかもしれないと思った。
- ・ 援農ボランティア先の受け入れ農家の方と話していると、直売所には限界があると言っていた。雨が降ったらお客さんは来ないし、真冬真夏の販売は身体への負担が多い。そのため、後継者の若い農家の方が、東小金井駅付近にあるスーパーの直売所スペースで農産物を販売していたり、市立公園で行われているマルシェに出展したり、様々な伝手を使って販売先を増やしており、日頃から直売所以外での販売先を探している。
- ・ 西武池袋線では様々な取り組みが行われているようで、西武新宿線でも来年以降に新しい「トキイロ」という電車が走るので、それに乗かって農業の支援も西武新宿線の売りにしてもらいたいと思う。
- ・ 小平の農業について現状を話すと、小平は農家の方々が農業を継続しようとして残ってきたものである。市外化調整区域では農地を簡単には転用できないため、農地が残っている。小平市は全面市街化区域で、生産緑地の多くが相続税納税猶予制度を受け、農家の方々の農地を守るという思いで制度を活用し、農地を維持している。このような状況が変わらない中で、どうやって農家の方々と連携して、支え手を増やしていくかということは、一歩進んだ新たな支援になると思う。
- ・ 大阪などで行われている「フード・マイレージ」は良いと思う。この野菜を1つ買ったから、あなたはこの農家の方の畑をどれだけ守ったとか、これだけ農家の方々の農作業を手伝ったら、これだけの畑を守ったといった情報を、農家の方々と支え手に共有し、お互いの取り組みを一緒に認識することで、この人がこれだけ小平市の農業に貢献してくれたんだという認識を持てるようになり、支え手を育てる取り組みとなると思う。

5 次回開催（第2回）

令和8年8月4日（火）午後2時00分から